

令和５年度 第４回入札等監視委員会 議事録

- １ 開催日時 令和６年１月１５日（月） 午後１時３０分から午後２時まで
- ２ 場 所 吹田市役所 中層棟４階 特別会議室
- ３ 出席委員 （委員長） 小野 憲一
（委員） 櫛部 幸子
（委員） 長谷川 佳彦

４ 会議の概要

契約候補者の選定にあたり、プロポーザル方式の実施を予定している次の案件について、所管室課の担当者同席の上、その実施の適否の審議を行った。

案件	案件名
Ⅰ	学校給食献立システムの構築及び保守業務

５ 議事録

【案件Ⅰ】学校給食献立システムの構築及び保守業務

- 長谷川委員 契約の予定期間は令和１１年３月３１日までということですが、その後の契約はどうする予定ですか。
- 保健給食室 基本的には同じパッケージのソフトを継続して使っていきたいと考えていますが、５年のうちに課題が生じてきた場合は、新たなシステムの導入も検討します。
- 長谷川委員 新たな課題がない限りは、今回の契約事業者が引き続き保守業務などをするということですか。
- 保健給食室 はい、そのとおりです。
- 長谷川委員 その点については、評価基準に折り込むことは考えていますか。
- 保健給食室 ５年以降の保守契約につきましては、保守金額がどの程度かかるかを提示させようと考えていますので、５年以降も見越した内容で考えています。
- 長谷川委員 アレルギー対応について、個人情報扱うためセキュリティが重要だと言われていましたが、それに関連して、事業者を選定する際、こういった方が選定をするのですか。
- 保健給食室 現在、選定委員として考えていますが、情報政策室の担当者、教育センターの所長等です。それ以外については、随時、関係部局と調整しようと考えています。
- 長谷川委員 そうすると個人情報をきちんと保護できているかについては、情報政策室の担当者がチェックをするということですか。
- 保健給食室 技術的なところは情報政策室ということで考えています。
- 櫛部委員 ５年間で執行予算額が６,２００万円に下がりましたということですが、当初の金額から随分と下がった理由はなんですか。

- 保健給食室 当初予算要求の段階では、プラスアルファの機能を別で設けていましたが、予算査定の結果、プラスアルファ部分を取り下げたので最終的にその金額まで下がりました。
- 櫛部委員 プラスアルファの機能とはどのようなものですか。
- 保健給食室 献立作成の際に、一部A I機能を搭載したものを検討していましたが、大学と連携して話を進めていましたが、財務当局の話では、成熟性と費用対効果の面で時期尚早ではないかという指摘を受けて、A I機能を取り下げました。
- 櫛部委員 価格算定について、複数者に問い合わせたということでしたが、具体的には2者に参考見積の提出を依頼したということですか。
- 保健給食室 統一の見積書で2者に見積を依頼しましたが、参加を想定しているのは3者です。
- 櫛部委員 2者で見積の金額に大幅な乖離があった場合、例えば金額を平均にしたり、金額の低い方を優先したりなどの判断があるかと考えられますが、今回は2者の金額についてほとんど乖離はなかったのですか。
- 保健給食室 金額自体は同規模でしたので、平均して執行予定額を算出しています。
- 櫛部委員 3者は参加が確認できているということですが、吹田市内から募集しているのですか。それとも全国的に募集をしているのですか。
- 保健給食室 今回の3者につきましては、全国から募集をしています。
- 櫛部委員 執行予定額に含まれる機能やその内訳について教えてください。
- 保健給食室 それぞれの機能や内訳についての資料がないため、不明です。
- 櫛部委員 費用として最も割合の多い、主たる機能はどのようなものですか。
- 保健給食室 基本的には献立を作成する機能が主たるものです。アレルギーに対応できる献立を同時に別々に作成、22,000人分の献立に必要な食材の発注手続き、調理するための指示書の作成、残食量の把握及びそのデータを献立システムへフィードバックできるような機能です。
- 小野委員長 今回考えているような献立システムを導入している近隣の自治体はありますか。
- 保健給食室 茨木市、枚方市、松原市などが今新しく給食センターをつくっているのも、それに伴って教育委員会、学校、センターを繋いだシステムを構築しています。
- 小野委員長 それらのシステムは今回考えているようなアレルギー対応ができるものですか。
- 保健給食室 各自治体が持っている教育システムと連携できているかまでは確認がとれていません。
- 小野委員長 様々な調理方法に対応できるシステムが必要であると説明がありますが、どのような調理方法ですか。
- 保健給食室 現在、小学校の給食については学校に調理室があり、そこで食材を搬入して

調理をしています。一方、中学校の給食については、選択制を採用しており、ランチボックスに入った状態で中学校に届くので、調理方法が全く異なります。

○小野委員長 調理方法が違うけれども、同じ献立ができるという解釈でよいですか。

○保健給食室 小学校と中学校では献立の内容が違います。

○小野委員長 今後、中学校の調理方法が変化しても対応できるようなシステムを目指しているということですか。

○保健給食室 はい、そのとおりです。

○櫛部委員 アレルギー対応の献立というのは具体的にどういったものですか。アレルギーを持つ方が、周りとは違う献立を食べなければならない状況になったりするようなことはありますか。

○保健給食室 吹田市では、国が決めているアレルギー表示の食材27品目のうち、15品目は使用せずに献立を作成していますので、その15品目の食材に対してアレルギーがある方は、全員が同じ献立を食べることができます。残り12品目にアレルギーがある方については、献立の準備ができないので、自宅から弁当の持参をしてもらっています。将来的には新しいシステムが上手く作動すれば、そういった除去食を作成できれば良いと考えています。

○櫛部委員 導入を考えているこのシステムは、現場からの声を十分に反映できるシステムになっていると考えてよいですか。

○保健給食室 現場の意見を聞き、不足している部分がある場合は、カスタマイズを含めて対応したいと考えています。

○小野委員長 実際に今回の業務が始まり、現場から様々な意見が出た場合、それらの意見をどのように事業者伝え、改善を求めようと考えていますか。

○保健給食室 保守業務が4年間あるので、機能面の不具合や要望についてはその範囲内で対応してもらおうと考えています。また、要望については、システムが通常通り作動しているかを事業者から報告してもらう定例会が月に1度ありますので、その際に対応してもらおうと考えています。

○小野委員長 そういったことを理解したうえで、事業者も本案件に参加するということですか。

○保健給食室 はい、そのとおりです。

○小野委員長 それでは、この案件についてはプロポーザル方式での実施が適していると判断します。

○小野委員長 本日の審議案件は以上で終了いたしました。それでは、以上をもちまして令和5年度第4回吹田市入札等監視委員会を閉会いたします。